

令和5年度 奈良県立大和中央高等学校 定時制課程 学校評価総括表

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	・生徒の学習ニーズやライフスタイル等に応じた学習機会の提供 ・生徒の「個別最適な学び」や「学び直し」等に関する支援
年度重点目標	(1) 自立した社会人となるための基礎形成を図る。 (2) 生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 高校通級の研究校として研究取組の充実に努める。 (4) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。 (5) 生徒の安全を守る取組の推進。 (6) 「命」を大切に行動できるよう、生徒への浸透を図る。 (7) 働き方改革の推進を行う。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校定時制課程では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の教育方針や教育内容を理解し、目標に向け自らの意思で学ぼうとする意欲をもつ生徒。 2 自分の生活リズムや職業等に合わせて学び、高等学校卒業を目指す生徒。 3 基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力、規範意識等社会で必要な力を身に付けたいと願う生徒。 4 新たな学校生活の中で自分を見つめ、新しい自分の発見や成長を目指す生徒。 5 多様な価値観や一人ひとりの違いを認めつつ、仲間と共に高め合いたいと願う生徒。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本校定時制課程では、「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、以下のような教育活動を行います。 1 単位制の特徴を生かし、生徒が自らに適した教材・科目を積極的に選択できる教育課程を編成する。 2 基礎的・基本的な学力の充実や社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力の習得を目指した学校設定科目を設定する。 3 共通科目に加え、商業科・家庭科等において、生徒の資格・検定等の取得につながる専門科目を設定する。 4 高等学校卒業程度認定試験や各種検定等で取得した単位を卒業単位として認定するなど、生徒の積極的な学びを評価し、3年修業による卒業の選択も可能とする。 5 定期的なスクリーニング等によるきめ細かい生徒理解に努め、SC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）や関係機関等と連携した支援を推進する。 6 多様な生徒の学びを保証するため、UDL（学びのユニバーサルデザイン）を意識した授業づくりに取り組む。 7 生徒の学習上・生活上の困難等の改善・克服を図るため、「通級による指導」を実施する。 8 HRや総合的な探究の時間、部活動を通して、生徒の社会性や人権意識の醸成、自己管理能力や望ましい勤労観等の獲得、進路実現等を支援する。 9 BYODの活用等、ICTを活用した教育活動の充実に努める。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校定時制課程では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 自主自立の精神をもって自分がなすべきことを適切に判断し、行動できる。 2 情探豊かな心をもって、自他の人格を尊重できる。 3 自ら進んで目標を定め、その達成に向けて真剣に努力し、未来を切り開いていけるたくましさをもつ。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. ころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	自己肯定感の醸成	ボランティア活動関連学校行事を毎期実施	ボランティア活動関連学校行事を年2回以上実施	前期は7/22「筒井地蔵尊祭」に生徒6名教諭2名、8/5「やまとの夏まつり」に生徒7名教諭3名が参加した。両日とも模擬店の準備、運営手伝い、後片付け等を積極的に行った。後期も11/3親子まつりボランティアに生徒5名、教諭2名が参加した。場内アナウンスや催し物の手伝い等を行い、有意義な時間を過ごした。	ボランティア活動への参加によって、地域貢献の実感や生徒の自己肯定感の向上が図られた。	・本校生徒はあまり人と接する機会が少なく、自発的な行動は難しいが、きっかけを作れば意欲的に取り組んでくれる。このような機会を今後も続けてほしい。	今後も学校運営協議会等を利用し、地域との連携やボランティア活動に携わる行事を模索し、回数を増やしていきたい。特に本校通信制が閉課程になることで、今後、定時制が「順慶祭り」にどのように関わっていくかを模索していきたい。
	他者への寛容なこころの育成	幼稚園・老人ホーム等への訪問を毎年実施	幼稚園訪問1回実施する。	12/12 筒井幼稚園に生徒14名、教諭2名が訪問した。園庭の外遊びや絵本の読み聞かせなど普段とは違うことではあるが、意欲的に取り組んだ。老人ホームには感染症対策のため訪問はできなかったが、プレゼントを渡すことができた。	訪問前は消極的だった生徒も、園児の元気な姿に刺激を受け、活発に活動することができた。また、プレゼント制作等の経験から、他者に寄り添う気持ちが醸成された。		来年度も幼稚園・老人ホームへの訪問を計画する。今後、授業で取り組んでいる以外でも交流を持っていか、検討する。具体的には、幼稚園では肥料作り、野菜作りのテーマを持ち、実習にあたられている。そのような実習にお手伝いをできないか検討していきたい。
	望ましい食習慣の確立	「食生活レター」を毎月発行	「食生活レター」を毎月1部発行	4, 7, 9, 10, 12, 1月に発行。	毎月が発行することはできなかったが、クイズ形式など、生徒が興味を示す工夫を行った。		「食生活レター」を毎月1部発行という目標よりも「食生活レター」の内容を、生徒が熟知できるように発行回数を抑えながらアンケートやクイズを使いながら工夫していく。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	わかる授業の創出	UDLに関する職員研修を毎期実施	UDLに関する職員研修を年2回実施	前期、後期各1回、生徒理解研修とともに実施した。	前後期とも生徒理解研修を実施し、学習に困難を抱える生徒への支援、UDLを意識した教育活動について、全教員による共通理解を図った。	・わかる授業を行うためには、まず環境である。教室では、ゴミが落ちておらず机もまっすぐ並んでいて環境が整備されている。続けていってほしい。 ・授業参観週間には毎年来られる保護者もいる。今後も続けてほしい。 ・パソコンを用いて授業が行われていた。生徒が社会に出て行くときに、パソコンを使いこなさないといけないことだと思うが、実際に手で文字を書くことも必要ではないだろうか。	生徒の個別支援やUDLを意識した教育活動等は本校教育の根幹であるので、全教職員に対して丁寧な研修を実施する。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数の増加	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数70%以上	前期終了後授業アンケートを実施した。前期の授業アンケートで「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者は88.1%であった。通年での同様の回答は89.3%である。	授業アンケートにおける肯定的な回答者数は、目標値を超えており、BYOD端末を利用した授業等成果が表れている。		BYOD端末を利用した授業展開に付いての研修を増やし、わかりやすい授業展開を目指す。また、「文字を書く」ということも授業展開の中でいかにか活かしていきたいか、研修してわかりやすい授業展開を目指したい。教員相互の授業観察等を行い、授業改善を行う。
	ICT教育の推進	令和5年度入学生の全授業でBYOD端末活用	令和5年度入学生の授業でBYOD端末活用を100%にする。	令和5年度入学生が受講する全授業で、BYOD端末の活用を行っている。令和3年度以前入学生についても学校から貸与している。	後期からは、令和5年度入学生が履修している全授業においてBYOD端末を利用し、大きなトラブルもなく授業展開できた。		令和6年度は、4年次以上の生徒に対して端末の通年貸し出しを実施し、端末を利用した授業をより広める。
	学校内の課題の共有や業務の適正化等、働き方改革を推進する	業務の改善、効率化	業務の改善、効率化について話し合う場を年に2回持つ。	職員打合せを効率よく行うため、以前はExcelで入力していたが、スプレッドシートでの入力を行うことで効率化を図れた。また、運営委員会、職員会議等のペーパーレス化を進めることができた。後期からは毎週水曜日を「定時退勤推奨日」とし、働き方改革を推進した。話し合いを2回行うことができた。	業務の改善、効率化を図ることができた。		今後も業務の改善や効率化を教員一同で取り組むため、見直しを行う場を検討していきたい。

3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	産業界との連携の推進	企業等を招いての「進路ガイダンス」を毎年実施	企業等を招いての「進路ガイダンス」を最低1回実施	6/14 「進路ガイダンス」を実施した。大学（2）、専門学校（7）、就職企業（12）を招き、生徒はその内の2つの模擬授業に参加した。	6月に進路ガイダンスを実施し、生徒の就職等に向けた意識の高まりに繋がった。	・個々の生徒の希望や状況に応じ、進路指導を行っていただいている。社会的に働き方改革が進んでいる。今後も状況に応じた指導を進めてほしい。	生徒ができるだけ多くの職業体験・模擬授業を経験できるように企画し、生徒の意識が高まった時の就職指導等の指導を見直していきたい。
	職業体験の充実	全ての学校求人による就職希望生徒75%以上に職場体験または職場見学を実施	全ての学校求人による就職希望生徒70%以上に職場体験または職場見学を実施	全ての学校求人による就職希望生徒全員（100%）に職場体験、職場見学を実施した。	職場体験・見学を実施することで、生徒の就職に向けた不安感の払拭に繋がっている。		企業との連携を密に作り、生徒の安心感に繋がる職場体験を実施する。なお、全員に行うことができていないが、一人ひとりの希望に対応しているため、引率している先生方の負担が重くなっている。今後、目標は継続するが、どのようにこの目標を維持するか検討したい。
	学び直し（リカレント教育）の機会提供	学び直しに関する積極的な広報活動	学び直しに関する積極的な広報活動を20箇所以上で行う	奈良市はぐくみセンターにて8/20、11/9にて実施。11/26 川西町文化会館にて実施。管理職による中学校訪問を20回以上実施した。	中学生の体験入学を実施し、個別の学校見学にも適宜対応している。		本校の広報活動も重要であるが、広報の目的として本校を受検希望する生徒が、学校見学にくるよう促したい。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会を毎年2回以上実施	学校運営協議会を2回以上実施	第1回を7/25、第2回を12/19実施した。	学校運営協議会を年間に2回実施できた。2回目は少人数で実施し、授業見学と授業体験を行った。各委員から意見の出やすい雰囲気作りを努めた。	・地域への貢献は生徒の成長へ向けて大きな要素となる。今後も積極的に実施してほしい。学校運営協議会の際には、授業見学と授業体験に行い、今の高校生の授業体制を体験することができた。	委員の方々に、協議会だけでなく学校訪問いただく機会やご意見を伺う機会を検討する。
	地域における多様な体験活動機会の創出	「集中総合講座」を毎年実施	「集中総合講座」を20講座以上実施	「集中講座」を7/14に32講座開講し、生徒は自分の興味のある講座に登録し、熱心に参加した。	いつもと違うという雰囲気の中で、生徒が楽しそうに参加する姿を見ることができた。教員の積極的な運営も見られた。		生徒の興味あることを掘り下げて、20講座以上開講する。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習成果の蓄積	「奈良TIME」授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上	学習終了後にアンケートを実施し、肯定的回答は95.8%だった。	「奈良TIME」担当教科において、学習成果の蓄積ははかられた。		授業アンケートを分析し、生徒がより意欲的に取り組める授業内容となるよう検討する。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	生徒理解に基づく生徒支援の充実	全生徒対象のスクリーニングアンケート及び全教員での生徒理解研修を毎期実施	全生徒対象のスクリーニングアンケート及び全教員での生徒理解研修を年2回実施	全体での生徒理解研修を4/21に実施した。また、8/21スクリーニング会議をおこない、得られた情報を各教員と共有した。	全教員の生徒理解研修を礎とし、職員室等での生徒に関する情報交換は積極的に行われ、個別の指導に繋がっている。	・服装や髪の色や髪型は自由であるが、チャイムがならない状態で授業が行われているなど、緩やかな部分と厳しい部分が共存している。授業の内容を見ると、高度な内容であるが、プリントを見ると全てルビがふってあるなど、本当に色々な工夫をされていると思う。	教員間の生徒に関する情報共有が、今後も頻繁に交わされるように推奨していく。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	生徒が回答しやすくするために、設問を変えたいじめアンケートを期ごとに実施	生徒が回答しやすくするために、設問を変えたいじめアンケートを年2回実施	SCによる本校独自のアンケートを年2回実施（6/28、1/24）。時期を県等が行うアンケートと重ならないように行った。	年間2回のいじめアンケートを実施。生徒理解に繋がっている。また、休憩時間や昼食時も教員が見守りを行うことで、日頃の様子を把握できるよう努めている。		「いじめ」だけでなく、「自殺」を防げる効果もあると思われるため、今後も年2回のアンケートを継続していく。
	通級指導の推進	通級指導対象全生徒について個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成	通級指導対象生徒について100%個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成	通級指導対象生徒について100%個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成している。	個別の支援計画に基づき通級による指導が行われ、対象生徒の大きな成長が見られた。		通級指導対象生徒の指導計画について現状は完成しているが、違う方法で生徒にアプローチができないか、常に検討し続けていきたい。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

※本校教育の中心は、生徒個人の適正に応じた温かい支援の教育である。教職員一人ひとりの、生徒を支援する「調和力」を高めるとともに、教職員のチーム力と学校運営協議会の委員の皆様を中心とした地域の方々との連携・協力を強めていく。

※「本校に入学してよかった」と感じている生徒の割合 85.7%(生徒アンケート、令和6年2月実施) 「本校に入学させてよかった」と感じている保護者の割合95.2%(保護者アンケート、令和5年9月実施)